

# 福島県の森林・林業の概況

## 1 森林資源

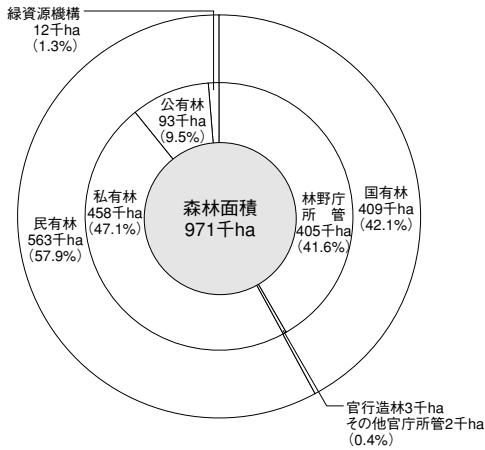
福島県の森林面積は、971千haで県土面積の約70%を占めている。これを保有形態別にみると、民有林は563千ha（57.9%）、国有林は409千ha（42.1%）である。

また、福島県の人工林面積は343千ha、天然林面積は576千haで、人工林率（森林面積に占める人工林面積の割合）は35.3%となっている。

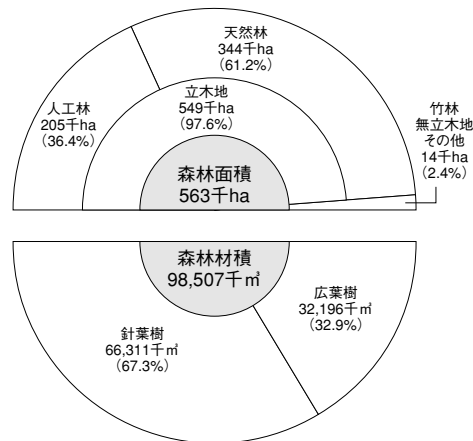
流域別に民有林の人工林率をみると、会津流域23%、阿武隈川流域41%、奥久慈流域58%、磐城流域53%と各流域の特色がでている。

民有林の森林材積は98,507千m<sup>3</sup>で、森林面積とともに全国で上位を占めている。

保有形態別森林面積



民有林の林種別森林面積及び森林蓄積



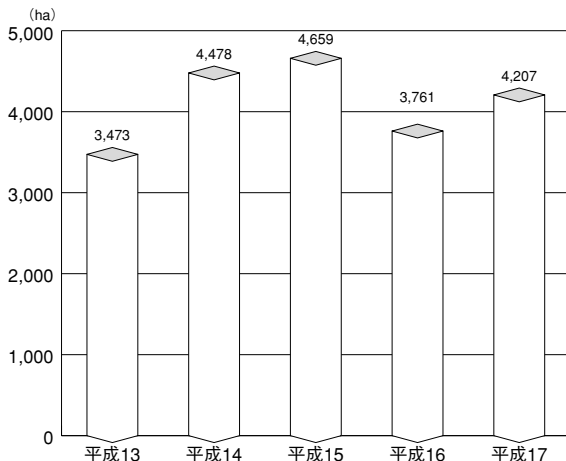
※面積および材積は各項目で四捨五入したため合計と必ずしも一致しない。  
※森林材積には専用樹林及び竹林分を含めていない。

## 2 森林整備

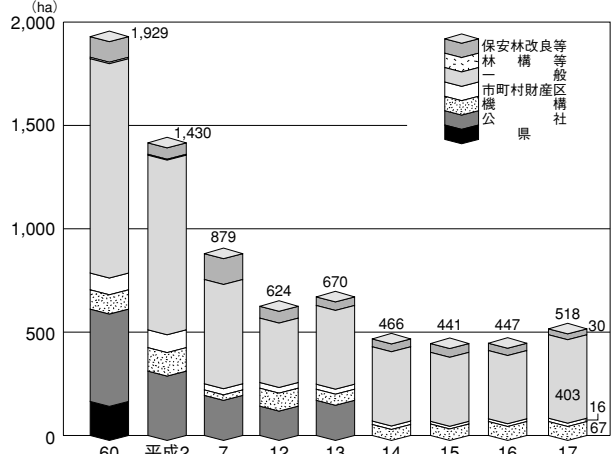
森林整備は、健全な森林の育成を図るため、植栽、下刈、除伐、間伐等の一連の森林施業を実施するものである。特に、本県民有人工林の7割に相当する14万haがⅣ～Ⅹ齢級の要間伐森林であるため、計画的かつ重点的に間伐を推進する必要がある。平成17年度の間伐実績については、4,207haとなっている。

また、造林面積は、昭和40年代後半から年々減少を続け、平成17年度の実績は518haとなっている。

民有林間伐面積の推移



民有林造林面積の推移



### 3 森林保護

平成17年は、林野火災の発生が76件、被災面積74haと平成16年と比較すると件数は減少したが、面積は増加している。

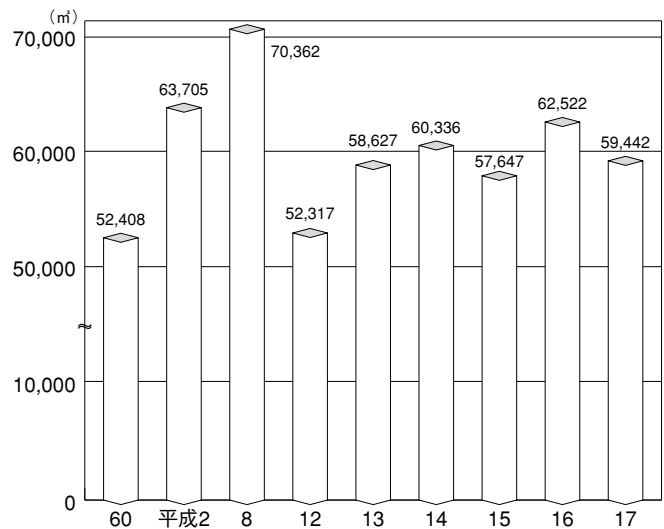
気象害では県南で雪害が発生した。

森林病害虫による被害では、松くい虫による被害量は、ふたたび増加傾向にあり、予断を許さない状況にある。

平成17年度森林被害面積

区分	面積(ha)	備考
森林火災	74	被害額 29,650千円
気象害	37	被害額 39,600千円
カシノナガキクイムシ	449	被害材積 4,097m <sup>3</sup>
松くい虫	41,254	
その他病害虫	100	被害材積 0m <sup>3</sup>
合計	41,914	

松くい虫被害の推移

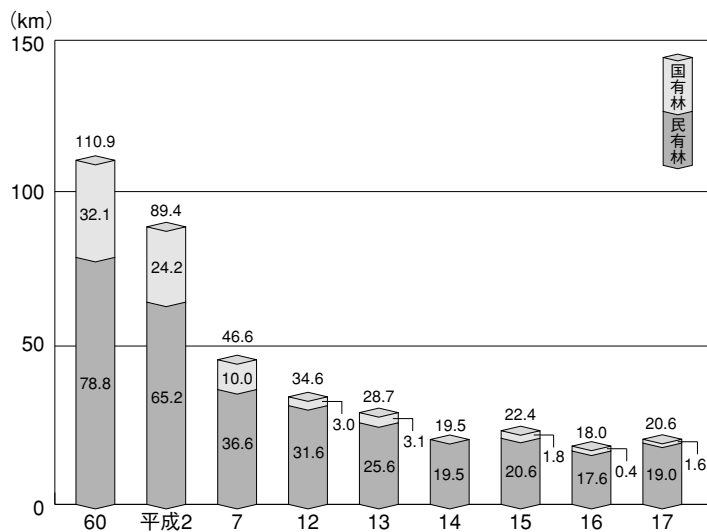


### 4 林道

林道の開設量は、減少傾向にあり、平成17年度に新たに開設された国有林及び民有林林道は20.6kmである。

平成17年度末の民有林の林道総延長は4,014kmであるが、林道の密度は7.13m/haと、低コスト林業を確立するにはまだ低い水準となっている。

林道開設延長の推移



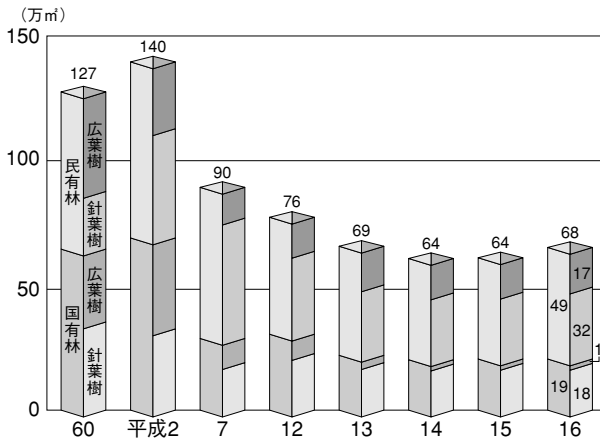
## 5 林産物

### (1) 木材

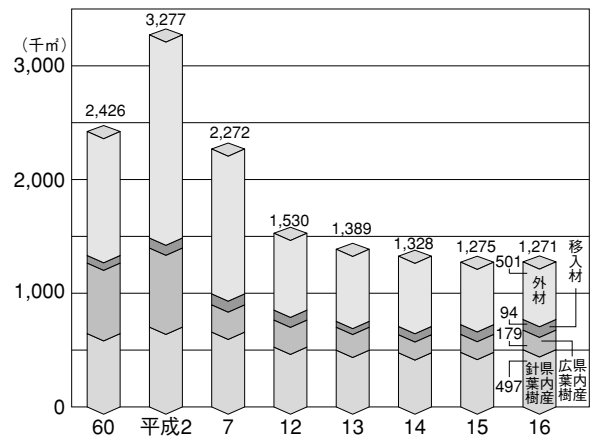
素材生産量は、平成2年まで年間1,200～1,300千 $m^3$ で推移してきたが、平成3年から減少に転じ、平成16年には676千 $m^3$ となった。

平成16年における福島県内の素材生産量の内訳は、国有林が183千 $m^3$ 、民有林が493千 $m^3$ となっており、針広別では針葉樹497千 $m^3$ 、広葉樹179千 $m^3$ となっている。ほかに外材入荷量が501千 $m^3$ 、県外からの移入量が94千 $m^3$ で、本県における木材供給量に占める県産材の割合は53%となっている。

素材生産量の推移



木材供給量の推移



### (2) 特用林産物

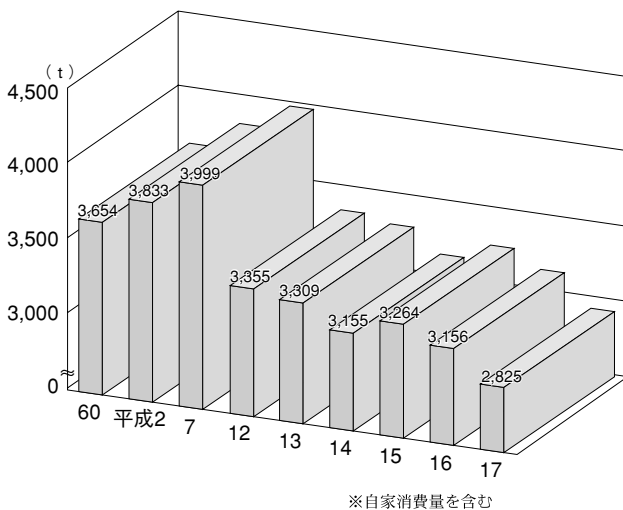
きのご類は、本県の緑豊かな森林資源と、大消費地に隣接した恵まれた立地条件を背景に安定して生産され、生しいたけの生産量は全国第7位、ナメコは第4位となっている。

桐については、生産量が全国第1位を誇っているものの、安価な外材の輸入による材価の低迷や連作障害・病害等の発生により、植栽は年々減少している。

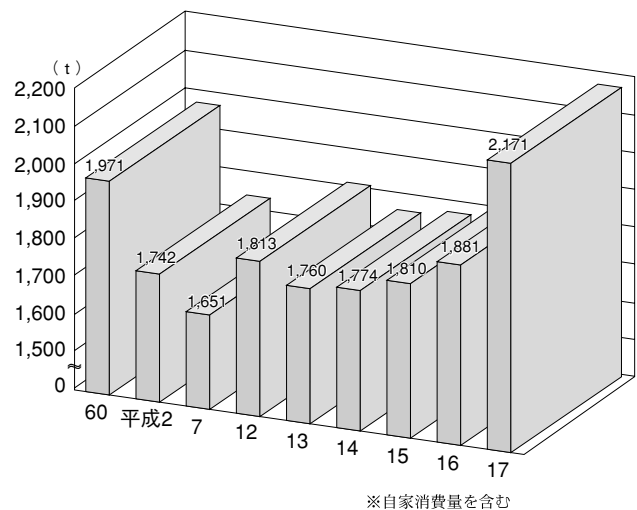
木炭（黒炭・白炭）については、生産量が減少しているが、全国第5位の生産県となっている。

平成17年における生産量は、生しいたけが2,825 t、なめこが2,171 t、桐が724 $m^3$ 、木炭（黒炭・白炭）が750 tとなっている。

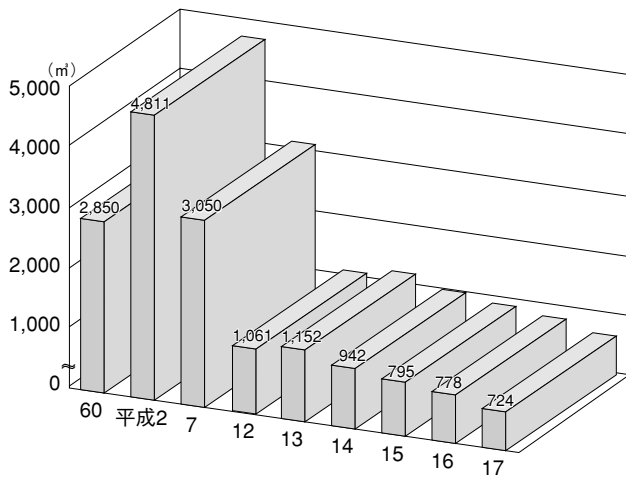
生しいたけ生産量の推移



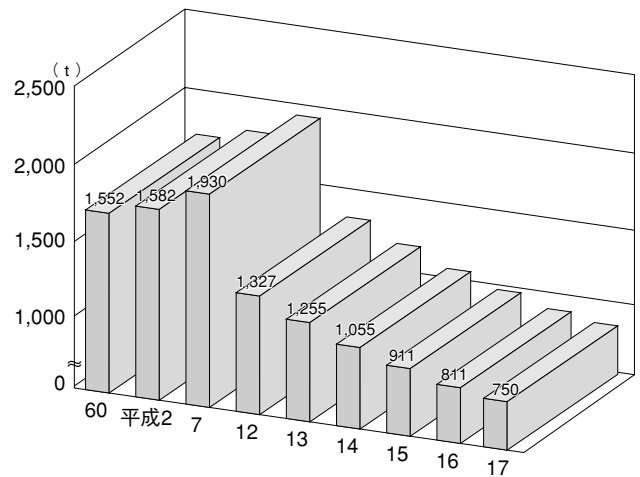
なめこ生産量の推移



桐生産量の推移



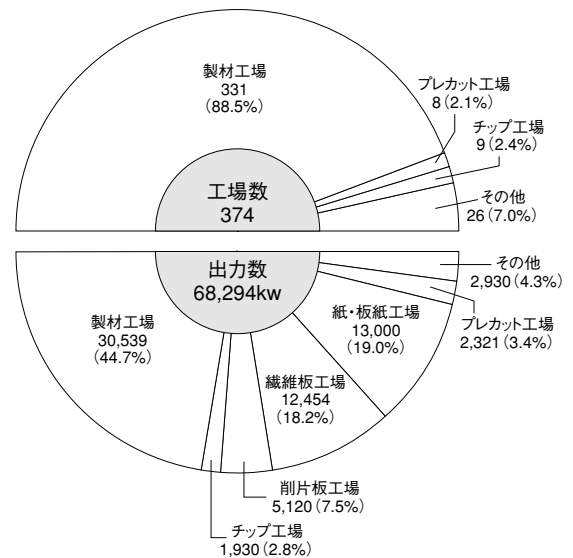
木炭生産量の推移



## 6 林産工業

木材産業の中で主要な位置を占める製材工場は、年々減少傾向にあり、平成16年には331工場と、20年間で5割近い減少を見ている。1工場当たりの規模は、製材用動力の出力数で見ると、3割近く増加しているが、平均92.3kwと全国平均をやや下回っている。

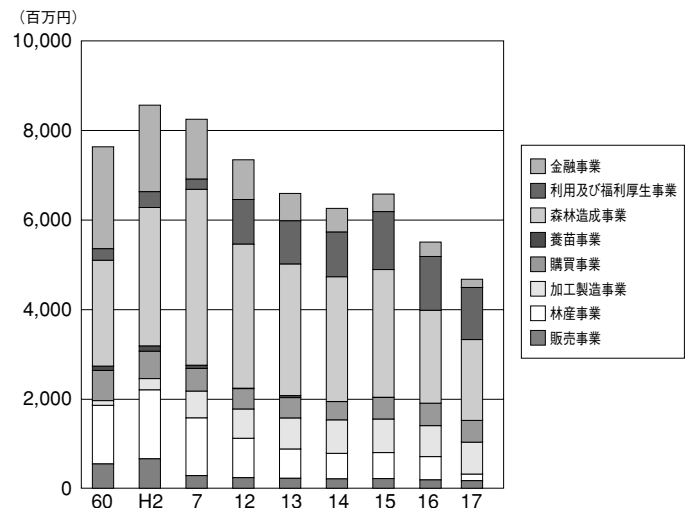
これら工場の構成は、国産材を専門に扱う工場が45%、外材を専門に扱う工場が10%、国産材と外材を扱う工場が45%となっている。



## 7 森林組合

平成17年度末における森林組合数は26組合であり、組合員数は57,938人（准組合員を含む）で、1組合平均の組合員数は2,228人となっている。また、組合員所有の山林面積は385,108 haで、民有林面積の約70%を占めている。

森林組合主要事業の推移

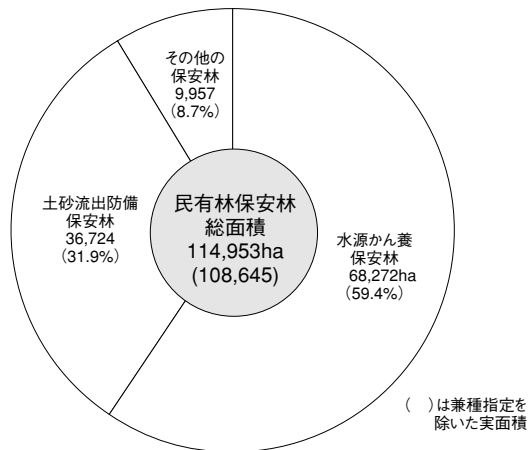


## 8 治山・保安林

近年の自然災害の多発や渇水に対応するため、災害に強い県土基盤の形成、良質な水の安定供給に果たす森林の役割に対する県民の期待が一層高まっている。このため、水資源のかん養や土砂災害防止等に重要な森林については、平成17年度現在で民有林面積の約20%にあたる115千haを保安林に指定し、その働きの維持・強化を図っている。(国有林を含めると森林面積の約30%が保安林に指定されている。)

また、山地災害の危険な地区については、平成17年度に1,113haの治山事業を実施している。

民有林保安林面積



治山事業実績推移

